



〒 113-0033

東京都文京区本郷 7 丁目 2-2 本郷ビル 9F

日本神経科学学会

TEL: 81-3-3813-0272 FAX: 81-3-3813-0296

The Japan Neuroscience Society

Hongo Bldg. 9F, 7-2-2, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

113-0033 Japan

E-mail:office@jnss.org <http://www.jnss.org>

Neuro2007



Thank you very much for submitting many abstracts.

Make advance registration by June 30, 2007.

The 30th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (JNS) will be held at Pacifico Yokohama (Yokohama, Kanagawa) from September 10 to 12, 2007, jointly with the 50th Annual Meeting of the Japanese Society for Neurochemistry (JSN) and the 17th Annual Meeting of the Japanese Neural Network Society (JNNS), as Neuro2007. Abstract submission was closed on April 4, 2007 and more than 1,750 abstracts were submitted. We are expecting the Meeting to be more exciting and interactive than ever.

目 次 Contents

Neuro2007	1
(Neuro2007 第 30 回日本神経科学大会)	
The 31st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society	3
(第 31 回日本神経科学大会(Neurosci2008)のご案内)	
プロテオミクス講演会に参加して	4
印象記	5
財団法人ブレインサイエンス振興財団	
平成 18 年度塚原伸晃賞及び研究助成受領者決定	6
The society have to provide the opportunity	7
- 書評欄 -	
神経科学 形態学的基础 間脳 [2] 視床上部、視床下域、視覚系	7
細胞の中の水	8
シンポジウム・研究会のお知らせ	9
研究助成	10
公募	13
その他	15
編集後記	17

The first/presenting author must be a member of the JNS, JSN or JNNS and must have paid annual membership fees. Please complete your membership application and/or payment immediately.

Review of abstracts and program organization are under way. The first/presenting author will be notified of the result (acceptance or rejection) and the date of presentation at the end of May, 2007. For plenary and invited lectures, and symposia information, please check our website.

<http://www2.convention.jp/neuro2007/>

Advance registration:

Advance registration will be closed on June 30 (Saturday), 2007 at noon (JST; GMT+9). Advance registration saves regular members 2,000yen and students 1,000yen than on-site registration. Those with advance registration will receive a program booklet and abstract CD in mid August. We accept credit card, and wire-transfer either at post office or convenience store (only domestically) for payment. You may be able to charge your registration fee to grants (Grant-in-Aid for Scientific Research, etc.), when you present the research results supported by them at Neuro2007. Please consult with your administrative officers for procedures. You can easily make advance registration at our website.

Travel Award:

Neuro2007 offers Travel Awards to non-Japanese students and young researchers traveling from abroad, especially from Asian countries, to support their participation. 48 out of 70 qualified applicants were selected. They are: 14 from India, 11 from China, 5 from Korea, 5 from Iran, 3 from Russia, 2 from Hong Kong, 2 from Thailand, and one each from Australia, Canada, Germany, Israel, Taiwan and US (all are countries of residence). Check our website for awardees and their presentation titles.

Day nursery

Day nursery and child room will be available at the meeting site (Pacifico Yokohama). At day nursery, professional staff will take care of children when their parents participate in the meeting. Reservation is required. Please check the details at our website.

Child room with play tools is also available free of charge for parents to have meals and take some rest with their children. Parent(s) must accompany their child(ren) for its use.

If you have any questions/suggestions, please contact Neuro2007 secretariat at neuro2007@convention.jp. Your strong support is essential for the success of Neuro2007.

Neuro2007 

多数の演題登録をありがとうございました
事前参加登録の締め切りは平成 19 年 6 月 30 日(土)正午です。

2007 年の第 30 回日本神経科学大会は、第 50 回日本神経化学会大会、第 17 回日本神経回路学会大会と合同で、2007 年 9 月 10 日(月)から 12 日(水)までの 3 日間、パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)で Neuro2007 として開催されます。演題登録を 4 月 4 日正午に締め切りました。約 1,750 題の登録をいただいて、盛況な大会になることが期待されます。

なお、会員登録をお済ませでない方、年会費未納の方は、筆頭著者として演題発表をすることができません。速やかに手続きをお願いいたします。

現在、一般演題の抄録内容の査読とプログラムの編成作業中です。採否の結果、発表日時などを 5 月末に、筆頭発表者宛にお知らせいたします。プレナリー講演、受賞講演、シンポジウムの情報を大会ホームページに掲載していますのでご覧下さい。

大会ホームページ (<http://www2.convention.jp/neuro2007/jp/>)

事前参加登録について:

事前参加登録の締め切りは 6 月 30 日(土)です。事前参加登録費は、当日参加登録費より正会員で 2,000 円、学生会員で 1,000 円安くなっています。また、事前参加登録者には 8 月中頃にプログラムと抄録集 CD を郵送します。事前登録費の支払いには、郵便振替、コンビニ支払、クレジット決済をご利用いただけます。また、研究成果発表のための大会参加費は科学研究費補助金などによる支払いが可能な場合があります。手続きについては

所属の事務担当者にご確認ください。事前参加登録は大会ホームページ上で簡単にすることができます。お忘れなく事前参加登録をお済ませください。

トラベルアワードについて：

大会の国際化のため、アジア諸国を中心とした外国からの若く活発な研究者の参加・発表を支援するトラベルアワードを設け募集しました。応募資格を満たす応募70名の中から厳正な審査で48名の受賞者を決定しました。インド14名、中国11名、韓国5名、イラン5名、ロシア3名、香港2名、タイ2名、他はオーストラリア、カナダ、ドイツ、イスラエル、台湾、米国がそれぞれ1名(いずれも居住国)です。受賞者、演題などの詳細は大会ホームページをご覧ください。

専門医・認定医研修単位について：

本大会への参加は、日本神経学会、日本精神神経学会、日本小児神経学会、日本老年精神医学会、日本良導絡自律神経学会(申請中)の専門医・認定医研修単位取得の対象となります。専門医・認定医の先生方はぜひご利用ください。

日本精神神経学会の「専門医資格更新にかかる研修ポイント」の取得には、大会の総合窓口にて「精神科専門医認定試験合格者証(ポイントカード)」を提示してください。係員が専用パソコンにてポイント数を入力いたします。

それ以外の学会については、Neuro2007の参加証および領収書をご自分で各学会に提出し、単位申請してください。詳細についてはそれぞれの学会にお問い合わせください。

託児室・親子休憩室のご案内：

本大会では、会場内に託児室と親子休憩室を設置します。託児室では、常駐する保育スタッフが、保護者の方が大会に参加される間、お子様をお預かりいたします。ご利用には事前予約が必要です。詳細は大会ホームページにてご確認ください。

また、託児室とは別に遊具等を備えた親子休憩室を設置します。親子休憩室は、お子様と一緒に食事や休憩を取りたい方が無料で自由にご利用いただけます。ご利用の際は必ず保護者の方がご同伴ください。

大会に関する質問・提案等がありましたら、大会事務局(neuro2007@convention.jp)までお願いします。大会の成功のために、会員のみならずの熱い支援をお願いします。

Announcement of the 31st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society

The 31st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society will be held at the Tokyo International Forum on the three days from July 9th to July 11th, 2008.

The goal of the Meeting will be to build bridges between a wide range of scientists with a variety of backgrounds in order to encourage the development of innovative and original basic research related to neuroscience. In recent years dramatic advances have been made in such fields as a comprehensive analytical approach in the biosciences epitomized by omics, the identification and description of functional molecules involved in developmental processes in the brain and higher functions, imaging technology that extracts information on brain function, and research on pathological mechanisms in neurological diseases, while, on the other hand, treatment strategies for brain diseases as a result of translational research that has drawn freely on novel technology, including RNA interference, which was the subject of the Nobel Prize for medicine or physiology in 2006, epigenetics, stem cell biology, and drug discovery based on molecular structure, are about to yield major developments. In addition, under circumstances in which common ground between the neurosciences and many other disciplines, including engineering, as represented by the brain-machine interface (BMI), educational theory, ethics, economics, etc., is also becoming clearer, I believe our major mission is to integrate this extremely widely divergent scientific information and create a setting in which new ideas flow from it.

We will take advantage of the geographic advantage of the Tokyo International Forum, which is located very close to Tokyo Station, and we sincerely hope that many scientists from a wide variety of fields related to the neurosciences, as well as persons engaged in other fields who have an interest in the nervous system, will participate and cultivate exchanges, and that a critical mass will be formed that will give birth to new currents in the neurosciences.

Date: 9(Wed.)-11(Fri.), July, 2008

Venue: TOKYO INTERNATIONAL FORUM
(Chiyoda-ku, Tokyo, Japan)

Homepage: <http://www.jnss.org/neurosci2008/>

Hideyuki Okano

(Department of Physiology, Keio University, School
of Medicine)

President, 31st Annual Meeting of the Japan
Neuroscience Society

第31回日本神経科学大会 (Neurosci2008)のご案内

第31回日本神経科学大会を2008年(平成20年)7月9日から11日の3日間、東京国際フォーラムで開催します。

この大会では神経に関する画期的かつ独創的な基盤的研究の展開を促進するために様々なバックグラウンドを持つ幅広い科学者の間を橋渡しすることを目標にしています。近年、omics に代表される生命科学の網羅的な解析アプローチ、脳の発生過程や高次機能に関わる機能分子の同定と解析、脳の機能的情報を抽出する画像技術、神経疾患の病態メカニズムに関する研究などの分野で飛躍的な進歩がみられる一方、2006年のノーベル医学・生理学賞の対象となったRNA干渉、エピジェネティクス、幹細胞生物学、分子構造に立脚した創薬などの新規技術を駆使した translational research による脳疾患の治療戦略も大きな展開を見せようとしています。また、ブレイン・マシン・インターフェイス(BMI)に代表される工学領域、教育理論、倫理学、経済学など多くの他の学問領域とニューロサイエンスの接点も明確となりつつある状況下で、これら極めて多岐にわたる科学的情報を統合(インテグレーション)し、その中から新しいアイデアが生まれてくる場をつくるのが、私たちの大きな使命であると考えています。

東京駅から直近の東京国際フォーラムという地の利を活かし、ニューロサイエンスに関わるあらゆる分野の多くの研究者や神経系に興味を持つ異分野の方々が参加し、交流を深め、新しいニューロサイエンスの潮流を創出する critical mass が形成されることを心から望んでおります。

会期:2008年(平成20年)7月9日(水)~7月11日(金)
3日間

会場:東京国際フォーラム(東京都千代田区丸の内)

詳細は大会ホームページ

(<http://www.jnss.org/neurosci2008/>)
をご覧ください。

プロテオミクス講演会に参加して

東北大学大学院医学系研究科
附属創生応用医学研究センター
ゲノム機能解析部門
形態形成解析分野
篠原 広志(しのはら ひろし)

今回2007年1月13 - 14日に岡崎の自然科学研究機構で開催されたプロテオミクス講演会に参加致しました。私は昨年4月より現在の研究室で大隅典子教授のもと、胎生期のラット脳を用いた神経発生での分子メカニズムについて研究しており、免疫組織学やイメージングといったアプローチを主に行っております。さらに今後プロテオミクスによって我々が追っている現象に係わる因子を網羅的に解析することを計画しており、今回の講演会に参加することで大変刺激となりました。

講演内容は非常に多岐に渡っており、発生学や生化学的研究の発表があると思えば、結晶構造解析がメインの研究発表もあり、ひとことにプロテオミクスといっても様々な研究分野によって行われていることを改めて痛感致しました。今回の先生方による21題の講演はどれもとても興味深く、私にとって大変勉強になるものばかりでありましたが、全てを挙げることはできないので、印象的な研究について紹介致します。リーリンのレセプター結合部位であるリジン残基がマウス、ニワトリといった脳に層形成がみられる生物種で保存されているのに対し、層形成をもたないホヤ、ナメクジウオ、ウニなどでは他のアミノ酸へと置換されていることから、脊椎動物以前ではリーリンが層形成とは異なる機能を有しているのではないかという高木淳一先生(阪大蛋白研)の話は大変興味深いものでした。また統合失調症ではモータータンパク質の分子輸送に必要な cargo タンパク質の発現低下がみられ、その結果多くの積荷となる分子

が正しく運ばれなくなり、神経細胞の発達に障害が生じているとの貝淵弘三先生(名大院医)の話や、神経系の様々な細胞種(オリゴデンドロサイト、アストロサイト、ニューロン)における発現タンパク質のプロテオーム解析を行い、さらにそれぞれの細胞種のストレス耐性から脳の老化について研究をしている戸田年総先生(都老人研)の話は、現在の私自身の研究にも大変参考となりました。プロテオミクス解析によりアルツハイマー病や前頭側頭型変性症、筋萎縮性側索硬化症などのコンフォメーション病発症に起因する分子やメカニズムを解明している川又純先生(京大医)、長谷川成人先生(都精神研)らの研究や、プロスタグランジンの結晶構造解析により、抗アレルギー、筋ジストロフィー治療剤となるプロスタグランジン阻害剤を構造情報やデータベースに基づいて開発している井上豪先生(阪大院工)の講演は、今後臨床応用への進展が非常に楽しみな内容でした。また体内時計分子の構造解析から、その作動原理を解明する石浦正寛先生(名大遺伝子)、池上貴久先生(阪大遺伝子)の研究は私にとって未知の分野であり、非常に刺激を受けました。以上、私の不勉強でしっかり理解していない点もあるかと存じますが、会の感想記とさせていただきます。そして今回の講演会で得た貴重な経験を生かし、今後の研究に役立てていきたいと思っております。



印象記

東京大学・医科学研究所
癌細胞シグナル研究分野
手塚 徹

平成 19 年 1 月 13 日(土)から 1 月 14 日(日)にかけて、自然科学研究機構・岡崎カンファレンスセンターで開催された『脳科学のためのプロテオミクス

技術の開発と普及リソース委員会・タンパク 3000 (脳神経系)・蛋白研セミナー』共催の講演会に参加させていただきました。参加にあたり、統合脳の総括班よりご支援いただきました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

この講演会は (1) 最先端のプロテオミクス手法、(2) プロテオミクスの脳神経系研究への応用、(3) 蛋白質相互作用や複合体構造の予測を目指したバイオインフォマティクス、(4) 蛋白質の立体構造解析技術と構造解析から得られた知見の応用、など幅広い内容から成っていました。これらは異なる方向からのアプローチですが、皆「蛋白質から脳神経系(今回の場合)を理解する」ことを目指していると思います。私はチロシンリン酸化反応が脳構築や脳機能にどのように重要であるかに興味を持ち、遺伝子改変マウスを使いながら実験を進めています。蛋白質研究手法の現状・展望を広く勉強し、自分の実験に取り入れられればと考え、この講演会への参加を決めました。会には蛋白質研究がご専門の先生・実際に脳研究に活用し成果を得られている先生に加え、私のような状況の方も多く参加されているようでした。

講演会を通じて、プロテオミクス・立体構造解析・バイオインフォマティクスの技術的な発展・成熟が着実に進み、例えばサンプル量・検出感度の問題などで、少し前にはできなかった解析が実現されていることがわかりました(できる研究室は限られるとは思いますが)。一方で、解析法のメインストリームは決まっているものの、それで「必勝」ではなく、個々のトラブルシューティングに皆さんが苦労されていることが伺えました。講演時間が 20 分と限られていることもあり、特に最先端の実験技術について、私が充分理解できたかと言われると自信がありません。しかし、会の主旨に基づき、演者の先生方は個々の実験手法がどのような解析に適しているかを丁寧に説明して下さいました。それぞれの解析手法の得意領域を知ることができたのは私にとって非常に有意義であり、自分の仕事にどう応用できるかを考えていました。また当然ではありますが、X線やNMRを駆使して立体構造解析をされている先生方の、構造を前にしての着眼点・次の一手も私には新鮮でした。各講演後に分野内外の先生から出される質問もユニークで、多様な考え方を聴くことができました。

いざ、先端的な蛋白質解析手法を取り入れるには、その手法をお持ちの先生に相談をお願いし、

ケースバイケースで大きく変わる実現性・問題点など多くを理解する必要があると考えます。しかし最新の蛋白質解析手法と、実際にプロテオームを活用した脳神経系研究とに一度に触れたことは、戻ってから調べ直し、まず自分の実験に活用する原案を作成する上で役に立ちました。また相談を歓迎して下さいる先生も多くいらっしゃり、幅広い交流を作る上でもよい講演会であったと思います。講演中・休憩時間・懇親会の様子から、分野の異なる先生としっかり会話する能力と積極性が重要であることを痛感しました。今回のような企画が学会レベルでも行われると、参加者も飛躍的に増え、「統合脳」の理念にも合う分野横断的な脳研究のシードが益々誕生すると考えます。



財団法人ブレインサイエンス振興財団
平成18年度塚原仲晃賞及び
研究助成受領者決定

URL:<http://www.bs-f.jp>

【平成18年度 第21回塚原仲晃記念賞受賞者2名】

銅谷賢治: 沖縄科学技術研究基盤整備機構大学院
大学 先行研究プロジェクト 代表研究者
「行動学習の計算理論と脳内機構の解明」
宮脇敦史: 理化学研究所 脳科学総合研究センター チームリーダー
「脳神経系の構造・機能を可視化する蛍光技術」

【平成18年度 第21回研究助成受領者 11名】

池田真行: 富山大学理学部生物学科助教授

「体内時計ニューロン生理活動リズム形成過程の解明」

加藤総夫: 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター教授

「慢性疼痛による扁桃体シナプス伝達の可塑性」
兼松 隆: 九州大学大学院歯学研究院口腔常態制御学講座助教授

「新規分子によるGABAA受容体の輸送調節」
川口泰雄: 自然科学研究機構生理学研究所大脳皮質機能研究系教授

「大脳皮質内興奮性回路の機能分化」
河崎洋志: 東京大学大学院医学系研究科神経機能解明ユニット特任助教授

「高次視覚系の神経個性決定の分子基盤解析」
久原 篤: 名古屋大学大学院理学研究所生命理学専攻助手

「温度の感知と記憶学習の分子神経回路機構」
伊達 紫: 宮崎大学フロンティア科学総合実験センター教授

「新たな脳内肥満制御因子の探索と機能解析」
仲嶋一範: 慶応義塾大学医学部解剖学教室教授
「移動神経細胞のダイナミクスの制御機構」

東島眞一: 自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター助教授

「脊髄神経回路網の発生および生理機能の解析」
吉田千春: 大阪府母子保健総合医療センター研究所病因病態部門研究員

「前脳形成におけるWntシグナルの機能解明」
吉村由美子: 名古屋大学環境医学研究所助手

「皮質内神経回路網の機能発達」

Letter from a foreign member

The Japan Neuroscience Society (JNS) caters to the need of the growth of neuroscience research in Asian countries. During its annual meetings, the society strives its best to foster relations not only with the established neuroscientists from the developed countries, but also with the growing neuroscience researchers amongst the Asian nationals. In one of its annual activities, the society provides a huge number of travel fellowships to international students, particularly those from the Asia-Pacific region. This gives a chance to attend the JNS annual meeting and interact with the reputed scientists. During the last two meetings that were held in Yokohama (2005) and Kyoto (2006), I had the opportunity of seeing the various programmes during the tenure of the conferences. JNS emphasizes student participation, especially in poster presentation. Ample time is allowed both for the presenters and visitors to have interactive discussions among themselves. My impression about the Japanese students is that they are highly responsive to poster sessions and take much interest in explaining and sharing the views with other participants. Some students are however, shaky in the beginning due to limited mastery over English, but they can continue and explain the subject nicely. Of relevance is the fact that in the last decade many Japanese workers have published their work in top-ranking journals like Journal of Neuroscience. To continue this spirit, the JNS should support research via obtaining generous funding from the Japanese government. The research output would be significant not only to them, but could pave the way for the Asian workers.

Dr T C Nag
Associate Professor
Department of Anatomy, AIIMS, New Delhi, India

- 書評欄 -

神経科学 形態学的基础 間脳 [2]
視床上部、視床下域、視覚系

佐野豊著、医学書院 2007年3月発行、25,000円

京都府立医科大学
大学院医学研究科
解剖学・生体構造科学
河田光博

本書は、神経科学 形態学的基础 「I. ニューロンとグリア」、「II. 脊髄と脳幹」、「III. 間脳 [1] 視床下部」に続く第4巻に当たる。前2冊はともに1,000ページを超え、第3巻も561ページ、第4巻も485ページの大著である。一巻の著作にほぼ3-5年を費やし、15年の歳月をかけて第4巻の上梓を見たものである。これらの4巻に一貫して流れる思想は、分担執筆という形態をとらず、一人の著作によるいわば全集的な著書であり、フォーマットが統一されていることである。分担執筆の著書の場合は、それぞれの専門家が専門分野を縦横に執筆している反面、各巻、各章ごとに、文体の統一のみならず、知識の深さに強弱がでて、読後感が満足と不満足のみならず模様を呈することがしばしば起きる。本シリーズの神経科学 形態学的基础は、その書名が示す形態学のみを扱ったいわゆる神経解剖の書ではなく、伝達物質や機能的意義にまで深く言及した、まさに複合領域の「神経科学」の書であり、読み進むにつれて著者の神経研究に対する情熱が自然と伝わってくるのである。ラモニ・カハールの著書を読みこなす時に感じる、あの圧倒的、網羅的、精密的なエネルギーと等質のものを抱くのは、私一人でないことは確かであろう。

本書は視床上部、視床下域、視覚系の発生も含めた領域の研究史の人物描写から始まり、神経核の命名、線維連絡、化学伝達物質におよぶ。とくに本文の約半数のページを視覚系に当てており、網膜の項の充実は他の視覚系を扱った著作の追従を許さないほど充実している。また、松果体などの視床上部の項では、比較解剖学の該博な知識をもとに頭頂器官の詳述がなされ、それを受けて網膜へと進む構成は、小説さながらの展開であり、著者の大局観には改めて敬意の念を抱く次第であ

る。ややもすれば形態学軽視の米国流の影響もあり、神経核や線維連絡に重きをおかない風潮があるが、本書ではその命名の経緯について正確に記載されており、その分類や名称、線維連絡についての日本語用語は最も信頼がおけるものと言える。さらに、文献の充実は見事であり、総ページ数の1/3以上にあたる170ページが引用文献に費やされている。インターネットによる文献検索がすべてであるかの感を若い研究者は持っているが、1800年代や1900年代前半の古い文献も整理されており、次代を担う研究者にとっては福音とも言える構成である。

本書の刊行は、我が国はもとより欧米においても類を見ない壮大な著作であり、体系化された知識と研究思想の流れが一冊の本に凝集されている。間脳と視覚系の研究者のみならず、神経科学を専門とする研究者にとって、いわば辞書的な役目も果たすことは疑いがない。なお、本書の出版に深い理解を示された医学書院の見識に敬意を表す。

細胞の中の水

(パスカル・マントレ [著]、東京大学出版)
(辻繁 / 中西節子 / 落合正宏 / 大岡忠一 [訳])

(独) 沖縄科学技術研究基盤整備機構
沖縄科学技術大学院大学先行
プロジェクト分子神経科学グループ
情報処理生物学ユニット
長谷川聡・丸山一郎

本書は、1995年、著者の母国であるフランスで出版された。その直後から日本語版への翻訳作業が始まったが、十年の歳月を経て、ようやく2006年に日の目を見るに至った。日進月歩の科学の世界において、致命的ともいえるほどの時間が経過したにもかかわらず、なお本書の内容が新しい研究主題である理由は「細胞の中の水」が細胞生物学ではあまり重要視されてこなかったからと考えられる。

著者は細胞マトリクス内の高分子と水分子との関係、水とイオンとの関係を新しい見方で述べる試

みをしている。まず、古典的概念として水の性質を物理化学的に、しかも難しい数式をほとんど使うことなく記述した上で、水分子のふるまい・役割を解説している。これまで、主に、細胞内とは比較にならないほど希釈された条件下で行われた試験管内の実験結果に基づいて、生体反応を理解しようとしてきた。本書は、こういった過去の生化学とは全く異なる「細胞の中の水」の性質を明るみにさらすとともに、新たな問題を提起することに成功している。そして、高分子間の情報伝達がどのように行われるかという重要な研究課題について、著者は高分子周辺にまとわりついた水分子の集合からなる境界面が事実上の「インターフェース」として情報伝達に深く関わっていると主張している。

著者自身が緒言で述べているように、本書は《物理学者によって啓発されて、生きている物質と向き合った、一人の生物学者の叙述》である。では、これまで日本の生物関連のミーティング・シンポジウム等で物理学者を交えて細胞内の水について議論された機会がどれだけあっただろうか？さらに驚くべき事に本書の英訳はもとより他の外国語訳がこれまで出版されていない。したがって、原著が日本語訳を通してのみ本書の内容に接することができる。本書には難解な文章が少なからず見られ訳者の苦勞がしのばれるが、最近のあまりにも簡潔な文章より味わいがあり、著者の考えを理解するうえで、より良い効果をもたらしている。また、本書が出版された1996年以降の文献が追加されているうえ、付録として定義および技術の解説が巻末にあり、なかなか重宝する。ただ、Peter Agreが1988年に発見し、2003年にノーベル賞を受賞した細胞膜中の水輸送を担っているアクアポリン(aquaporin)についての記述がないのは残念である。本書の改訂版が期待される。それでも本書は生物学を始める学生はもとより生物学に関わるあらゆる分野の研究者に読んで欲しい本として推薦する。

INFORMATION

シンポジウム・研究会



第34回岡山脳研究 セミナーのご案内

日時:2007年7月28日(土)13:00 ~ 17:30
場所:岡山大学医学部第一臨床講義室(岡山市
鹿田町2-5-1)

テーマ:「今、求められる神経精神疾患治療薬
- 現行薬の功罪と注目される新薬 -」
神経精神疾患治療薬の最新事情, 現行薬の功
罪と現在日本で治験・申請中の新薬の特徴, 先
行する海外治験データや薬理作用についての
講演

参加対象者:医学系・薬学系学生, 大学院生, 研
究者および近隣の医師, 薬剤師

プログラム:

注目される抗うつ薬の薬理と臨床 - 治療抵抗性
うつ病への対応 - (北村佳久:岡山大・医薬管理
学)/ アルツハイマー型認知症薬物療法の現況と
未来(中村 祐:香川大・精神神経医学)/
パーキンソン病治療薬の最近の動向:Change
of Winds(山本光利:香川県立中央病院・神経
内科)/ 注意欠陥多動性障害(AD/HD)の病態とそ
の治療薬(岡 牧郎:岡山大・発達神経病態
学)/ 脳梗塞治療薬の最前線(真邊泰宏:岡山医
療センター・神経内科)

参加費: 一般: 2,000円, 大学院生・学生: 1,000円
抄録集代: 1,000円(会場にて徴収)

事務局:

〒700-8558 岡山市鹿田町2-5-1
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科脳神経
御学講座神経情報学
第34回岡山脳研究セミナー
代表世話人 浅沼幹人 事務局 河原弘美
Tel: 086-235-7410, FAX: 086-235-7412,
e-mail:brainsci@cc.okayama-u.ac.jp,
URL:[http://www.okayama-u.ac.jp/user/
brainsci](http://www.okayama-u.ac.jp/user/brainsci)



第32回組織細胞化学 講習会のご案内

日時:平成19年8月7日(火)、8日(水)、9日(木)
場所:講演:京都芸術劇場・春秋座(京都造形芸
術大学内)
技術講習会(ウェットラボ):京都府立医科大学
基礎医学棟・実習棟

講演(8月7日、8日)

1. 光学顕微鏡の基本、2. 電子顕微鏡の基礎と
応用、3. コンフォーカル顕微鏡の基礎と応用、
4. 免疫組織化学の基礎と新展開、5. 抗原の賦
活化、6. モノクローナル抗体の作成、7. in
situ ハイブリダイゼーション法の基礎と応用、
8. ホールマウント in situ ハイブリダイゼー
ション法、9. FISH法の基礎と応用、10. GFPの
基礎と応用、11. GFP イメージングの実際、
12. FRETの基礎と応用、13. RNAiについての基
礎と応用、14. Qドットの基礎と生物学への
応用、15. 硬組織の細胞組織化学について、16.
ノックアウトマウスの作成、17. 遺伝子改変動
物の作成と可視化、18. 画像解析ソフト(Image
Jなど)の使用と展開、19. 病理診断における組
織細胞化学の意義と問題、20. 病理診断と免疫
組織化学、21. 病理診断とムチン、22. レーザ
ーマイクロダイセクションと病理診断

技術講習 ウェットラボ(8月9日)

1)免疫組織化学法、2)in situ ハイブリダイ
ゼーション法、3)未固定非脱灰凍結標本の作成、
4)リアルタイムPCR、5)共焦点顕微鏡の基礎、6)
蛍光顕微鏡の基礎とリビングセルイメージン
グ、7)RNAi法、8)レーザーマイクロダイセク
ション、9)画像処理とイメージソフトの使用

主催 京都府立医科大学 大学院医学研究科
教授 河田光博

URL: [http://www2.kpu-m.ac.jp/%7Eanat1/
soshikikagaku.html](http://www2.kpu-m.ac.jp/%7Eanat1/soshikikagaku.html)

E-mail(問い合わせ):info_32kjsch@nacos.com

E-mail(パンフレット請求):

panf_32kjsch@nacos.com



ICONIP2007 へのお誘い

平成 19 年 11 月 13 日 ~ 16 日に、北九州学術研究都市(北九州市若松区ひびきの)において、第 14 回神経情報処理国際会議(14th International Conference on Neural Information Processing, ICONIP2007)を開催いたします。神経情報処理とその関連分野の最前線の研究にたずさわっておられる多くの研究者、科学者、工学者、教育者、学生の皆様のご参加をお願いいたします。

若手中心の新鮮で魅力溢れる招待講演には必ずや満足して戴けるものと確信しています。一般講演も質の高いものになるようさまざまな工夫を凝らしています。これらに加え、Bain IT Special Sessions では、九州工業大学の 21 世紀 COE プログラム「生物とロボットが織りなす脳情報工学の世界」の成果発表を、デモンストラーションとともにご覧いただけます。是非多くの方々にご参加いただき、神経情報処理とその関連分野の最新の研究成果について大いに議論していただきたいと存じます。

招待講演者

Keynote Speech:

Mitsuo Kawato (ATR Computational Neuroscience Laboratories)

Plenary Talks:

Shin Ishii (Nara Institute of Science and Technology)

Yoshiyuki Kabashima (Tokyo Institute of Technology)

Frédéric Kaplan (EPFL)

Andrew Y. Ng (Stanford University)

Rajesh P. N. Rao (University of Washington)

論文投稿締め切り等、ICONIP2007 に関する詳しい情報については、下記のホームページをご覧ください。

<http://www.iconip07.org>

ICONIP2007 広報担当

九州工業大学大学院生命体工学研究科脳情報専攻 中川秀樹

研究助成



光科学技術研究振興財団 研究助成と表彰の募集

【研究に対する助成】

(対象課題)

第 1 課題 光科学の未知領域の研究

とくに光の本質について

第 2 課題 細胞間あるいは分子間の情報伝達についての研究

(助成金総額) 約 5,000 万円

【研究に対する表彰】

(対象者) 光科学に関する基礎的な研究で、内容が独創的であり、かつ過去 2 年以内に発表された研究論文、講演、報告等の内容により対象者を選定。(35 歳以下の方を対象)

(表彰金総額) 100 万円

【応募締切】 2007 年 8 月 31 日(金)

【問い合わせ先】

財団法人 光科学技術研究振興財団

〒430-0926

浜松市中区砂山町 325-6

日本生命浜松駅前ビル 8 階

TEL 053-454-0598 FAX 053-454-1929

<http://www.refost-hq.jp>

e-mail: info@refost-cs.or.jp



第4回(平成19年度) 日本学術振興会賞受賞 について

1. 趣旨

我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるためには、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を支援していく必要があります。この趣旨から日本学術振興会は、平成16年度に日本学術振興会賞を創設しました。

2. 対象分野

人文・社会科学及び自然科学にわたる全分野

3. 授賞

授賞数は20件程度とし、受賞者には、賞状、賞牌及び副賞として研究奨励金110万円を贈呈します。なお、日本学士院より、日本学術振興会賞受賞者のうち5名以内に日本学士院学術奨励賞が併せて授与されます。

4. 対象者

国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる者のうち、平成19年4月1日現在以下の条件を満たす者となります。

- 1) 45歳未満であること
- 2) 博士の学位を取得していること(博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含みます。)
- 3) 日本国籍を有する者又は外国人であって推薦時点において我が国で5年以上研究者として大学等研究機関に所属しており、今後も継続して我が国で研究活動を予定していること

5. 受付期間

平成19年6月4日(月)～6日(水)(必着)
(午前10時から正午まで及び午後1時から午後5時まで)

6. 推薦書類の提出先及び問い合わせ先

推薦書類は下記へ持参、又は郵送にて提出してください。

〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地
独立行政法人日本学術振興会
総務部 研究者養成課「日本学術振興会賞」担当

TEL 03-3263-1762 FAX 03-3222-1986

<http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/>



第24回井上学術賞 候補者の募集

本学会は(財)井上科学振興財団より第24回井上学術賞受賞候補者の推薦を依頼されています。

希望される会員は2007年8月20日までに学会事務局(送付先 〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目2-2 本郷ビル9F 日本神経科学学会 山根 慶子)に所定の用紙に必要事項を記入してお送りください(本学会からの推薦は1件とします)。

第24回(平成19年度)井上学術賞 受賞候補者推薦要項

1. 候補者の対象 自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた研究者。

但し、年齢が平成19年9月20日現在で50歳未満の研究者に限ります。

2. 学術賞本賞:賞状及び金メダル副賞:200万円
授賞件数は5件以内とします。

(注)受賞者は、原則として1件につき1人となります。特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等であることを示してください。但し、この場合においても1件として取り扱います。

3. 推薦依頼先 28学会、並びに当財団の理事・評議員等に推薦を依頼します。

4. 推薦件数 各推薦学会または各推薦者から、原則としてそれぞれ1件とします。

5. 提出方法 所定の推薦書用紙(当ホームページに掲載)に必要事項を記載し、当財団あてに提出願います。

6. 締切期日 平成19年9月20日(木)

7. 選考 当財団の選考委員会において選考し、理事会において決定します。

選考の結果は、平成19年12月中旬に推薦者に通知します。

8. 学術賞の贈呈 平成20年2月4日(月)午後4時から東京で開催の予定。

9. 推薦書提出先 及び連絡先

財団法人 井上科学振興財団
〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-15
南平台今井ビル 601

電話:03-3477-2738 FAX:03-3477-2747

E-mail:inoue01@inoue-zaidan.or.jp



第39回(2007年度) 内藤記念科学振興賞 候補者の募集

本学会は財団法人内藤記念科学振興財団より第39回(2007年度)内藤記念科学振興賞候補者の推薦を依頼されています。

希望される会員は2007年9月3日までに学会事務局(送付先 〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目2-2本郷ビル9F 日本神経科学学会 山根 慶子)に所定の用紙に必要事項を記入してお送りください(本学会からの推薦は1件とします)。

問い合わせ先

財団法人 内藤記念科学振興財団
113-0033
東京都文京区本郷3丁目42番6号NKDビル8階
電話(03)3813-3005 FAX (03)3811-2917
E-mail:info@naito-f.or.jp
URL:<http://www.naito-f.or.jp/>

内藤記念科学振興財団では、科学振興賞の他にも、助成をおこなっておりますので、内藤記念科学振興財団 URL:<http://www.naito-f.or.jp/> にて、ご覧ください。

第39回(2007年度)

内藤記念科学振興賞候補者推薦要領

趣旨 人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的領域において進歩発展に顕著な功績のあった研究者に対してほう賞を授与するものである。

候補者資格

- 1) 人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究において独創的テーマに取り組み、進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。
- 2) 候補者は単独とするが、異なる研究グループによる共同研究の場合には、連名であっても良い。
- 3) 候補者の再度の推薦は差支えない。

推薦方法: 所定の用紙(候補者推薦書、宛名シール)に必要事項を記入し、当財団あて送付する

締切日:2007年10月1日(月)財団必着

選考方法:選考委員会で審査し、評議員会の同意を得て、理事会で決定する採否の結果は、2008年2月に候補者および推薦者に通知する

授賞式・顕彰:授賞式は受賞者夫妻を招いて2008年3月19日(水)に行う受賞者には内藤記念科学振興賞(正賞:金メダル、副賞:500万円)を贈呈する

その他

- 1) 候補者推薦書は、できるだけワープロでご記入下さい。(切り貼り可)
- 2) 推薦書用紙は両面コピーで、宛名シールは同型のシールで申請可能です。
- 3) 学会推薦の場合は、学会の公印を捺印ください。

公 募



基礎生物学研究所
統合神経生物学研究部門
ポスドク募集のお知らせ

基礎生物学研究所・統合神経生物学研究部門
では、ポスドク1名を募集致します

[研究内容]

「体液塩濃度恒常性制御の脳内機構」の研究に従事していただきます。分子生物学・生化学・生理学・形態学・行動学的観点から、体液のNa濃度、浸透圧の情報をモニターする脳内センサー分子の解析、その情報を塩分/水分摂取行動に結びつける神経回路の解析、また抗利尿ホルモン等の神経内分泌の制御機構等について総合的に研究を進めます。(本テーマに関する最新の成果: Shimizu et al., *Neuron* 54, 59-72, 2007)。

確固とした技術を持っている人、新しい方法論に積極的に取り組む意欲のある人を歓迎します。研究室は各種実験機器も揃い、研究に没頭するには抜群の環境にあります。待遇は、大学共同利用機関法人・自然科学研究機構の規定によります。詳しくはお問い合わせ下さい。

[提出書類]

1. 履歴書
2. 研究業績リストおよび主要論文部刷り(コピー可)
3. これまでの研究概要、および今後の抱負
4. 応募者の照会が可能な方1名の氏名と連絡先

[応募書類送付先・問い合わせ先]

〒444-8787

愛知県岡崎市明大寺町字東山5-1
基礎生物学研究所 統合神経生物学研究部門

野田 昌晴

電話:0564-59-5846

電子メール:madon@nibb.ac.jp



生理学研究所大学院生
募集および説明会の
ご案内

自然科学研究機構生理学研究所(<http://www.nips.ac.jp/>)では、人体の機能を解明することを目標に、分子からシステムに至る広範なレベルを有機的に統合した先端的研究を進めています。大学院(総合研究大学院大学生命科学研究科生理科学専攻)として、博士号の取得が可能な博士後期課程(修士卒相当での入学)と5年一貫制博士課程(学部卒相当での入学)があり、意欲ある若い研究者の参加を求めています。興味のある方は、下記問い合わせ先あるいは生理学研究所ウェブサイトから各研究部門にご連絡ください。また、平成20年度大学院入学のための説明会を以下のように開催いたしますので、気軽にご参加ください。

日時:2007年6月16日(土)13:00 ~ 18:00

場所:生理学研究所5階講義室

(愛知県岡崎市明大寺町西郷中38)

内容:各研究部門の研究内容紹介と見学

詳細は<http://www.nips.ac.jp/daigakuin/> をご覧ください。

問い合わせ先:

生理学研究所発達生理学系生殖・内分泌系
発達機構 箕越靖彦

TEL: 0564-55-7745

e-mail: minokosh@nips.ac.jp



理研 BSI 知的脳機能
研究グループ
チームリーダー・
ユニットリーダー
公募のお知らせ

理化学研究所・脳科学総合研究センター (BSI) 知的脳機能研究グループは、この度新たなチームリーダーまたはユニットリーダー 2 名程度の公募を行います。知的脳機能研究グループは「脳を育む」領域に属し、人間の知的脳機能の基盤を担う抽象概念の形成と操作やコミュニケーションなどの能力の、系統進化や生後発達の過程の神経メカニズムを研究してきました。本グループに今回新しく設置されるチームまたはユニットは、人間の情動と社会性に関わる脳内機構の理解につながる広い範囲の基礎的な研究を、BSI の現存研究チームと相補しながら展開することが期待されます。

チームリーダーは一定の研究費を受け、10 名前後の研究員およびテクニカルスタッフからなるチームを組織して研究を行います。ユニットは小型で、3 ~ 5 名程度の構成です。チームリーダーおよびユニットリーダーともに、年度毎の雇用契約で、給与は、経験・能力・実績に応じた年俸制です (その他の待遇は当研究所規程による)。また、5 年ごとに国際評価委員会による評価を受け、高い評価を受けた場合は研究チーム・ユニットを更新できます (ただし、ユニットの研究期間の上限は 10 年です)。応募者の国籍は問いませんが、BSI 常勤を条件とします。着任時期は決定次第協議します。

応募を希望される方は、1) 履歴書、2) 発表論文リスト、3) これまでの主な研究成果、4) これからの研究計画 (A4 用紙 4 枚以内)、5) 3 名の照会可能者の名前と連絡先を以下までお送り下さい。

【書類送付先・問い合わせ先】

理化学研究所
脳科学総合研究センター サーチ小委員会 25
〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1
ファックス : 048-462-4914
E-mail: search25@brain.riken.jp
応募締切 : 2007 年 7 月 31 日 (必着)
<http://www.brain.riken.jp>



大学院生 (修士・博士)
募集および説明会

東京大学・大学院
医学系研究科・脳神経医学専攻
21 世紀 COE プログラム
「脳神経医学の融合的研究拠点」

受験資格

医科学修士課程: 学部卒 (平 20 卒見込を含む)
医学博士課程: 医歯獣医学部卒または他学部
修士修了 (平 20 年 3 月修了見込を含む)

選考方法

医科学修士課程

願書受付: 平成 19 年 7 月 2 日 ~ 9 日
(郵送のみ、当日消印有効)

入試: 筆記 8 月 20 日、口述 8 月 24 日
医学博士課程

願書受付: 平成 19 年 8 月 1 日から 8 月 8 日
(郵送のみ、当日消印有効)

入試: 筆記 10 月 15 日、口述 10 月 16 日

問い合わせ: 大学院掛 (Tel: 03-5841-3309)

大学院説明会のご案内

日時: 平成 19 年 6 月 9 日 (土) 午前 9 時半 ~
12 時まで (説明会後各研究室見学)

場所: 東京大学医学部教育研究棟 13 階 1304 号室
専門分野・主任は下記の通り。各教室概要
は、<http://NeuroCOE.umin.jp/> から。
お問い合わせ・見学申込は直接 E-mail で。

基礎神経医学

神経病理学 岩坪威 iwatsubo@mol.f.u-tokyo.ac.jp

神経生化学 尾藤晴彦 hbito@m.u-tokyo.ac.jp

神経ネットワーク (医科研)

真鍋俊也 tmanabe-ky@umin.ac.jp

COE 神経機能解明ユニット

河崎洋志 kawasaki@m.u-tokyo.ac.jp

認知・言語医学

認知・言語神経科学

坂井克之 ksakai@m.u-tokyo.ac.jp

感覚・運動神経科学

山嵜達也 tyamasoba-ky@umin.ac.jp

臨床神経精神医学

神経内科学 辻省次 tsuji@m.u-tokyo.ac.jp

脳神経外科学 斉藤延人 nsaito-ky@umin.ac.jp

精神医学 選考中



関西学院大学理工学部 生命科学科教員公募

公募人員:4名。教授、准教授または専任講師(経験と実績による)。(付記)

所属:理工学部生命科学科生命医化学専攻。(付記)

専門分野:薬理・生理学(1名)、分子免疫学(1名)
幹細胞発生学(1名)、脳神経学(1名)。

(全分野ともに哺乳類を研究対象にしている候補者が望ましい。)

担当科目:生命科学の講義・実験、教養教育の生命科学及び大学院科目。

着任時期:2009年4月1日(2010年あるいは2011年4月からの着任の可能性あり)。

提出書類:

- (1)履歴書(写真貼付)
- (2)研究業績リスト
- (3)主要論文の別刷り(3編以内)
- (4)従来の研究経過と将来の研究及び教育に対する抱負(1500字以内、4専門分野のうち特に強く希望する応募分野を記入していただいても結構です)
- (5)推薦書2通(または所見を求め得る方2名の氏名と連絡先)

応募締切:2007年7月31日(火)必着。

書類提出先:〒669-1337

兵庫県三田市学園2丁目1番地

関西学院大学理工学部長 尾崎幸洋

(「生命医化学専攻人事応募書類」と表記して郵送。なお提出書類は返送いたしませんのでご了承ください)。

問合せ先:同理工学部 山崎 洋 電話 079-565-8734 E-mail: hyamasaki@ksc.kwansei.ac.jp

付記: 当理工学部では講座制をとっておりませんので、教授・准教授・専任講師は同じ面積の研究室で独立して研究を行います。

この公募人事は2009年4月に予定する生命科学科の生命医化学専攻の設置に伴うものです。正式採用にあたっては、文部科学省の専攻設置認可を条件とします。

そ の 他



日本学術会議からの連絡

突然メールを差し上げますことをお許しく下さい。私は日本学術会議連携会員の久保田弘敏と申します。お願いがあり、メールを送らせていただいております。個別にお送りすべきではありませんが、大量にわたりますので一括でお送りさせていただきます。

ご承知と存じますが、日本学術会議では「科学のミスコンダクト(不正行為)」に関して、その防止についての努力を行っておりますが、2005年7月には公開講演会を行って、さらに議論を深めました。私はその公開講演会の実行委員長をつとめました。その講演録およびその後の動きについて収録した学術会議叢書「科学のミスコンダクト - 科学者コミュニティの自律をめざして - 」が、昨年末に刊行されました。下記は、日本学術会議ニュースメールNo.51(2006年12月5日発行)に掲載された記事です。

同講演会を開催するに際しては、各学協会での倫理綱領の作成状況等のアンケートのお願いを致しました。上記学術会議叢書には、その結果も掲載しております。アンケートにご協力いただきましたことに御礼申し上げますとともに、この学術会議叢書をご購入いただき、今後の活動に役立たせていただけましたら幸甚に存じます。

添付しました宣伝用チラシをご参照の上、財団法人 日本学術協力財団(電話 03-5410-0242、Fax 03-5410-1822、E-mail:jssf@pro.odn.ne.jp)宛ご注文ください。疑義等ございましたら、私あてご連絡ください。

貴団体のますますの発展を祈念しております。

2007年4月12日

日本学術会議連携会員
 久保田弘敏 (東京大学名誉教授)
 〒145-0071 東京都大田区田園調布 5-53-15
 Tel/Fax:03-3721-0217
 E-mail:k_16104@j02.itscom.net

学術会議叢書 13

科学の ミスコンダクト

科学者コミュニティの自律をめざして

科学技術の国際競争が激しさを増す中で、論文やデータの捏造、改ざんといった不正行為が後を絶たない。この科学のミスコンダクトに科学者自身が防止の具体案を提言。

著者 久保田弘敏 (東京大学名誉教授)
 編者 佐藤 学 (東京大学大学院理学系研究科)
 監修 藤本 強 (国学院大学大学院)
 監修 池内 了 (総合研究大学院大学先端科学技術研究科)
 監修 角田文男 (神戶医科大学)
 監修 武田隆二 (筑波大学大学院)
 監修 坂岡 章 (筑波大学大学院)
 監修 森 英樹 (筑波大学大学院)
 監修 浅倉むつ子 (筑波大学大学院)
 監修 鈴木征太郎 (筑波大学大学院)
 監修 笠木伸英 (筑波大学大学院)

科学のミスコンダクト 13

定価: 1,890円 (本体価格 1,800円)

発行 財団法人日本学術協力財団
 制作 株式会社ビュープロ

ISBN4-939091-22-8 C3336 ¥1800E

【お申し込み先】
財団法人 日本学術協力財団
 〒166-0031 東京都港区赤坂3-24-20 電話03(5410)0242
 FAX 03(5410)1822

【お申し込み方法】
 下記の欄にご記入の上、FAXでお申し込みください(住所、送料は別表となります)。

科学のミスコンダクト		申込用紙	申し込み部数	冊
貴団体名	ご担当者名			
ご住所	〒			
電話番号	FAX			



神経科学ニュースへの 原稿を募集しています

求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内のほかにも、学会への提言、研究雑感、学会見聞録、書評等神経科学の発展につながるものであればどのようなものでも結構ですので以下の要領でお送りください。

1. 原稿は電子版のみを受け付けています。原稿は電子メール添付ファイルでお送り下さい。
 a. 受付可能なファイル形式はWord、EG Word(11以前)、KacisWriterです。それ以外にも或る程度対応可能ですが、事前にご相談ください。また作成に用いたアプリケーションに関わらずHTML、rtfファイルは受付可能です。テキストファイルも可ですが、その場合メール本文に埋め込んでください。

b. 画像ファイルはPICT、JPEGまたはTIFFファイルで、可能な限り圧縮して本文とは別のファイルでお送りください。

c. 求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内に関しましては、A4サイズ2段組で刷り上がりは、画像ファイルや、表などを含めて1/2ページ以内を単位として作製してください。なお、フォントは原則として、タイトルには14ポイント30文字以内、本文には10ポイント850文字以内を、目安にしてください。その際、画像ファイルや表等を掲載ご希望の場合は、その大きさを差し引いてください。

2. 著者校正は行いません(お送りいただいたファイルをそのまま利用します)ので、誤りの無いことをお確かめの上、原稿をお送り下さい。
 3. ニュースへの掲載は1回のみとさせていただきます。

4. 求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内などは特に御希望のない限り、神経科学会のホームページにも掲載します。記事の長さには制限はありませんが、可能な限り簡潔におまとめ下さい。長すぎる原稿は一部割愛させていただく場合があります。

5. 他のサイトへのリンクは原則としておこなっておりませんのでご了承ください。

6. 締切は通例偶数月の月末25日ですが、都合により変動することがあります。

7. 掲載料は不要ですが、掲載依頼者は原則として学会員あるいは協賛・後援団体である事が必要です。

8. 原稿の送付の宛先は以下の通りです。
 news@jnss.org (担当 白尾智明) 宛お送りください。

編集後記

新学期に入ったのもつかの間、あっという間に5月の大型連休も終わってしまいました。皆様いかがお過ごしでしょうか。研究費に対する各省庁の対応が変わってきたせいで、連休の過ごし方にも大きな変化がでてきました。たとえば、以前は科研費の内定が連休明けでしたが、最近では早くなったおかげで、連休を心静かに迎えることができるようになりました。又、一方では、各省庁からの補助金事業の年度報告書の締め切りが、5月になったものが増えたようです。3月末が幾分か楽になったかわりに、連休は報告書書きになってしまう方も多かったかもしれません。さて、本号には、冒頭のNeuro2007(パシフィコ横浜)のお知らせとともに、来年のNeurosci2008(東京国際フォーラム)のお知らせも掲載されております。首都圏での開催が2年間連続することになりますが、東京国際フォーラムでの開催は本会としては初めてです。昔は東京といえば都市センターで開催されたものですが、神経科学学会の発展を見るおもしろい気がします。(白尾 記)

発行：広報委員会

狩野方伸(委員長)

白尾智明(ニュース編集小委員会委員長)

真鍋俊也(電子化推進小委員会委員長)

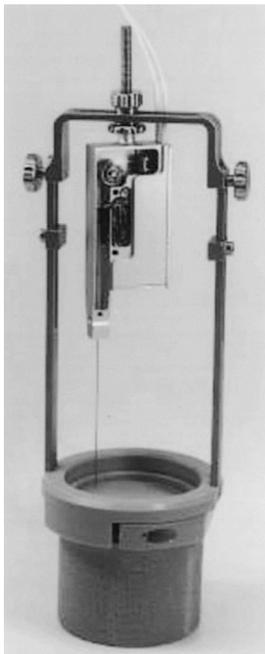
柚崎通介(ホームページ担当小委員会委員長)

Thomasの実力を御存知ですか？

ドイツ技術の精緻をあなたの研究室へ

超小型マイクロマトリックスシステム

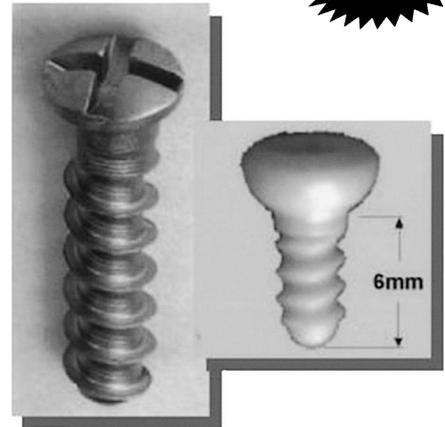
超軽量システム誕生、わずか63g!!



最新超軽量マイクロマトリックスシステムは、MRI計測に対応した埋め込み型グリッドアレイチャンバーと、超小型モータードライブのマイクロマトリックスから成り立っています。電気生理とMRI計測を両立させることが可能です。グリッドアレイ採用により精確な位置再現性が確保されます。掌にのる大きさを、是非実感して下さい（サイズ：チャンバーφ38mm：ドライブ53mm）

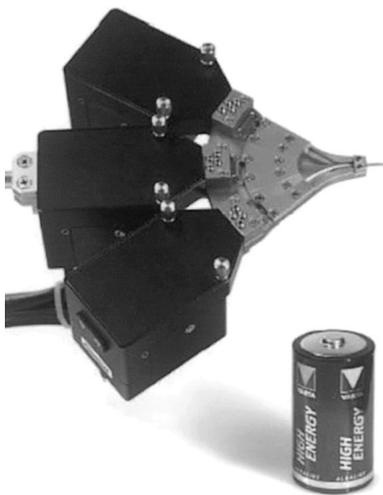


セラミックネジとチタンネジ



チャンバー等の埋め込み、固定用にセラミックとチタン製のネジを御用意致しました。セラミックネジはMRI計測に最適です（消毒済み製品を、お届け致します。）

48チャンネルミニマトリックスドライブ



ミニマトリックスは、霊長類脳に固定可能な多電極用小型軽量マニピュレータで、最小軸径25 μ mのワイヤ電極を扱うことが可能です。Thomasのオリジナル（Eckhorn）回路採用により、ヒステリシス皆無の脳内マニピュレーション動作環境をお届けします。最新型の48チャンネルモデルでは、3台のミニマトリックスドライブを組み合わせるにより、12本の独立電極、または12 \times 4本電極（48チャンネル）が操作可能となっております。また御使用に当たっては、頭蓋固定用チャンバーや固定器具（MRI対応製品）のカスタマイズ化にも対応致しております。今までにない小型システムを是非お試しください（単一電池と大きさをお比べ下さい!!!）

※Thomas RECORDING社の製品は全て、アカデミックプライスで提供させていただいております。弊社ホームページで確認下さるか、または弊社まで直接にお問い合わせ下さるよう、是非、お願い致します。

ショーシン EM 株式会社

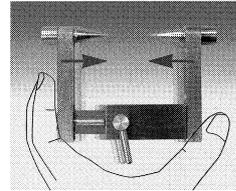
〒444-0241 愛知県岡崎市赤浜町蔵西1-14
TEL：(0564)54-1231 FAX：(0564)54-3207
URL：<http://www.shoshinem.com>

簡単に。確実に。ソフトに。

NARISHIGEの固定装置へのこだわり

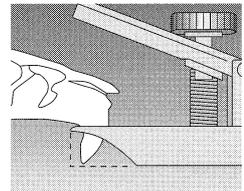
片手で簡単に操作できる補助イヤバー

二本の指で挟み込むようにするだけで滑らかに動作するアリ機構を採用。固定時の感触を指先で確かめながら、左右の耳部をソフトなタッチで固定することができます。



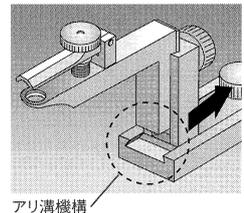
薄くて小さな口金具

マウスやラットの小さな口部に合わせて口金部を薄く、小さく設計しています。歯が固定されている様子が容易に確認でき確実な固定をサポートします。



滑らかに動作する位置調整機能

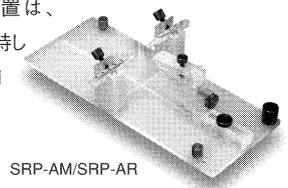
口鼻金具の位置調整はアリ溝機構を採用し、きわめて滑らかに動作します。口鼻金具を引っ張る時の微細な感触が手に伝わってくるので、誤って歯を折ってしまったり、外れてしまう心配が少なくなります。



アリ溝機構

MRIに対応した頭部固定装置

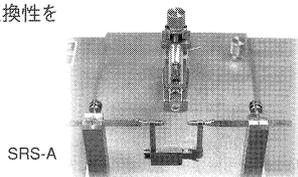
100%プラスチックの頭部固定装置は、ナリシゲのSRシリーズと高い互換性を維持しました。脳定位固定に加え、これからMRI測定も行いたいという方に最適です。



SRP-AM/SRP-AR

新生ラットからマウスまでの微細調整機構

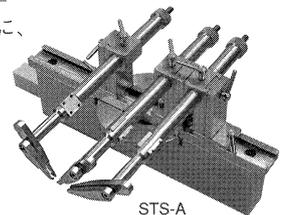
従来固定が難しかった新生ラットを安全に固定する、細部の微細な調整機構を装備した頭部固定装置を開発しました。SRシリーズとの高い互換性を維持しています。



SRS-A

デリケートな脊髄をソフトにクランプ

壊れやすく脆い脊髄を安全にクランプするために、手の力加減で微細な調整が可能。ソフトなクランプはマウスやラット新生児にも有効です。



STS-A

詳しくは当社担当までお問い合わせください。

インターネットホームページなら、他の各種製品の詳細も手にとるように判ります。 <http://www.narishige.co.jp>

株式会社 **成茂科学器械研究所**

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4丁目27番9号 TEL.03-3308-8233 FAX.03-3308-2005

e-mail: sales@narishige.co.jp